

第 1 2 回
全 日 本 カ ッ タ ー 競 技 大 会

日 時	43年5月19日 09.00~16.00
場 所	館 山 海 岸 沖
主 催	全 日 本 カ ッ タ ー 連 盟
主 管	東 京 水 産 大 学
後 援	館 山 市
	デ ィ リ ー ス ポ ー ツ 新 聞 社

第12回全日本カッター競技大会

主 催 全日本カッター連盟

主 管 東 京 水 産 大 学

後 援 館 山 市

デイリースポーツ新聞社

日 時 昭和43年5月19日（日曜日）

午前9時から 午後4時まで

会 場 館 山 市 東京水産大学館山実習場

第12回全日本カッター大会を迎えて

東京水産大学学長 富 山 哲 夫

新緑薫る5月数多い海に生きる大学生の中から選ばれた200余名の精鋭が館山湾に集い、雌雄を決する豪快なカッターレースが行われることとなりました。

当校は八十周年にあたり八十周年の行事の一環として、本大会を御世話できることは誠に喜びに堪えません。

けれども、準備万端不行きとどきの点もあろうかと存じますが、御寛容をお願い致します。

わが国は四面海に囲まれた環境で歴史伝統は海を通して、礎かれてまいりました。ですから海なくして現在の日本はなかったといえましょう。

海に学ぶ諸君の任務はこの意味からも重大であると信じます。

今日は日頃培かわれた力を十分に発揮して悔いのないレースを展開して下さい。

諸君の健闘を祈ります。

終りに臨み本大会を開催するにあたり種々御配慮賜りました各位に対し、深甚なる謝意を表するものであります。

大 会 役 員

会 長	東京水産大学 学 長	富 山 哲 夫
副 会 長	東京水産大学 学生部長	野 中 順 三九
審 判 長	東京水産大学 教 授	山 口 芳 男
役 員	海 技 大 学 校	明 渡 範 次
	海上保安大学校	八 重 樫 勉
	鹿 児 島 大 学	肥 後 伸 夫
	神 戸 商 船 大 学	西 原 義 久
	水 産 大 学 校	橋 本 市 雄
	東 京 商 船 大 学	中 島 保 司
	長 崎 大 学	柴 田 恵 司
	日 本 大 学	添 田 秀 男
	防 衛 大 学 校	寺 島 広 康
	三 重 県 立 大 学	細 川 鉄 雄
	東 京 水 産 大 学	宮 崎 芳 夫

大 会 委 員

委 員 長	增 田 忠 利	涉 外 中 塚 民 夫
庶 務	風 間 秦 教	志 村 貞 実
会 計	太 田 豊 勝	艇 官 崎 彦
宿 泊	渡 辺 勝 久	保 安 太 田 久 一
会 場	山 田 俣 久	判 水 野 敬 一
競 技 場	杉 崎 馨 夫	企 画 井 川 正 比 古
記 録	大 谷 道 夫	野 中 繁 孝
進 行	佐 野 茂	中 島 廣 信
放 送	森 本 永 三	岩 崎 考 一
接 待	石 渡 義 信	田 原 一 隆

出 漕 ク ル ー

海 技 大 学 校

(註) ◎キャプテン ○マネージャー

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
顧問	明渡 範次						
艇指揮	南山 秀彦	本科 N	2	164	65	広島商船	(広島)
艇長	大光 倉茂	本科 N	2	160	55	"	
1	河野 南海	甲 2 E		160	58	浜田水産	(岡山)
2	辺見 満	"		166	60	山口水産	(山口)
3	浮見 須美	"		160	60	牡鹿	(宮城)
4	榎戸 克美	甲 2 N		165	65	両津	(新潟)
5	石田 巧	"		164	62	清水	(神奈川)
6	西田 稔	"		171	65	唐津	(佐賀)
7	東 健三	本科 N	2	171	64	浜田水産	(島根)
8	王 越久	甲 2 N		174	67	門司	(鹿児島)
9	東 考憲	甲 2 E		174	67	清水	(東京)
10	宮内 玉城	"		172	66	土庄	(香川)
11	上田 富雄	本科 E	2	165	68	広島商船	(大阪)
12	赤松 広之	甲 2 N		164	65	栗島	(高知)
補	横田 鉄夫	甲 2 E		160	58	門司	(福岡)
"	長田 弘満	"		170	78	富山水産	(富山)
"	三浦 武良	本科 N	1	170	60	海大	(愛知)
"	吉川 規良	本科 N	2	170	55	高山商船	(福島)
"		本科 E	1	167	65	弓削商船	(奈良)

海 上 保 安 大 学 校

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
顧問	八重樫 勉						
艇指揮	北風 紘明	E	4	176	68	御影	(兵庫)
艇長	橋本 良明	N	3	170	64	福野	(富山)
1	佐藤 清志		2	164	63	上野ヶ丘	(大分)
2	上原 伸之		2	165	54	浦河	(北海道)
3	原 信義	E	3	164	60	邇摩	(島根)
4	西田 芳正		2	169	58	門司	(福岡)
5	岩瀬 尚志	E	3	164	60	足立	(東京)
6	岩 尚		2	172	69	富山中	(富山)
7	◎高橋 勝	N	4	178	73	木更津	(千葉)
8	東 正美		2	173	81	塔南	(京都)
9	五十嵐 一馬	N	3	169	65	国府台	(千葉)
10	野網 仁		2	166	63	三本松	(香川)
11	古屋 克己	N	3	165	59	立川	(東京)
12	村井 正広		2	165	60	名古屋	(愛知)
"	○亀井 豊	N	4	177	68	中村	(愛知)

出 漕 ク ル 一

鹿 児 島 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
顧問	肥 後 伸 夫						
艇指揮	税 所 裕 宜	漁業	3	172	64	国 分	(鹿児島)
艇長	中 越 政 重	漁業	3	162	55	山 田	(福 岡)
1	丹 生 考 道	漁業	2	168	63	田 川	(福 岡)
2	小堀田 親 敬	製造	3	168	61	熊商大付 属	(熊 本)
3	太 田 八 十 六	漁業	3	165	62	標 津	(北 海 道)
4	中 間 正 治	漁業	3	168	63	加 世 田	(鹿児島)
5	中 西 宗 範	漁業	3	170	66	生 野 一	(大 阪)
6	中 森 西 宗 義	経営	2	175	66	高 松 第 一	(香 川)
7	石 井 井 拓 見	漁業	2	175	63	門 司	(福 岡)
8	岩 井 林 拓 郎	増殖	3	174	71	一 閑 第 一	(岩 手)
9	小 岩 屋 哲 二	漁業	3	168	58	筑 紫 丘	(福 岡)
10	岩 屋 哲 二	製造	3	168	59	中 種 子	(鹿児島)
11	中 村 正 明	漁業	3	165	61	三 次	(広 島)
12	伊 賀 野 東 彦	漁業	3	162	64	大 府 第 一	(山 口)
	◎佐 野 東 彦	経営	3	164	59.5	甲 府 第 一	(山 梨)

神 戸 商 船 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
顧問	西 原 義 久						
艇指揮	◎船 橋 俊 一	航海	4	180	73	文 京	(東 京)
艇長	野 田 英 夫	機関	4	168	64	芦 屋	(兵 庫)
1	桑 田 源 太	機関	3	165	65	竜 野	(兵 庫)
2	伏 井 繁 雄	航海	3	170	65	今 宮 工 業	(大 阪)
3	脇 屋 伯 英	機関	2	173	75	畝 傍	(奈 良)
4	増 田 代 明 彦	航海	4	170	67	尼 崎 北	(兵 庫)
5	田 代 世 紀	機関	2	180	74	豊 津	(福 岡)
6	泉 広 実	機関	2	175	68	二 日 市	(広 島)
7	武 田 安 夫	航海	3	176	74	岐 阜	(岐 阜)
8	筒 井 井 哲 史	航海	3	172	70	明 石	(兵 庫)
9	藤 井 雄 史	航海	2	178	70	市 岡	(大 阪)
10	田 中 豊 治	航海	3	172	61	畝 傍	(奈 良)
11	福 岡 真 一	航海	2	168	64	武 生	(福 井)
12	江 崎 康 一	航海	2	168	65	竜 野	(兵 庫)
補	三 坂 正 信	航海	4	176	70	竜 野	(兵 庫)
〃	◎上 窪 良 和	航海	3	173	60	大 手 前	(大 阪)

出 漕 ク ル 一

水 産 大 学 校

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
願 問	橋 本 市 雄						
艇 指 揮	義 元 利 彦	製 造	3	162	60	湊 川 高	(兵 庫)
艇 長	穴 戸 上 公	漁 業	3	170	63	鳳 高 高	(大 阪)
1	井 平 隆	製 造	2	163	65	杵 築 分	(大 分)
2	田 村 良 夫	製 造	3	166	62	下 館 第 一	(鹿 児 島)
3	海 保 貢 一	漁 業	2	166	67	松 阪 工 業	(茨 城)
4	藤 本 洋 幸	機 関	2	170	65	東 住 吉	(三 重)
5	計 盛 幸 雄	機 関	2	171	66	富 岡 西	(大 阪)
6	若 王 子 健 一	漁 業	4	175	68	正 則	(德 島)
7	大 野 昭 一 憲	製 造	2	182	75	舟 入	(東 京)
8	三 山 辨 高 芳 夫	漁 業	3	175	68	富 岡 西	(廣 島)
9	山 羽 賀 真 晤	機 関	3	172	66	篠 山 鳳	(德 島)
10	中 田 中 堀	漁 業	3	178	70	長 岡 鳴	(兵 庫)
11	補	漁 業	3	169	61	豊 浦	(新 潟)
12	補	漁 業	2	169	61	川 本	(山 口)
〃	〃	機 関	4	170	66	仙 台 三	(島 根)
〃	〃	増 殖	2	165	60	〃 高	(宮 城)

東 京 商 船 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	
願 問	中 島 保 司						
艇 指 揮	横 地 三 千 夫	航 海	4	165	70	酒 田 東	
艇 長	萬 治 隆 生	〃	4	170	63	倉 吉 東	
1	野 口 勝 利	機 関	4	172	65	熊 子 東	
2	山 下 昭 治	〃	2	166	60	米 半 東	
3	山 下 栄 治 郎	航 海	2	171	62	桐 明	
4	有 本 裕 雄	〃	〃	174	65	東 筑	
5	甲 斐 文 雄	〃	〃	175	75	酒 田 東	
6	伊 藤 孝 清	〃	4	172	70	都 立 田 谷	
7	谷 木 憲 一	機 関	3	172	70	安 世 田 谷	
8	鈴 島 雄 節	〃	3	170	70	都 立 新 宿	
9	中 西 正 純	航 海	4	169	65	高 知 学 芸	
10	松 村 正 純	〃	3	170	65	大 泉	
11	市 川 栄 純	〃	3	172	64	佐 野	
12	本 庄 三 郎	〃	2	168	64	都 立 目 黒	
補	森 田 文 雄	機 関	4	169	63	都 立 江 北	
〃	町 野 悟	〃	3	165	62	帯 広 三 条	
〃	市 川 貴 正	〃	3	168	65	青 山	
〃	神 原 英 正	航 海	2	174	63	米 沢 興 讓	
〃	加 瀬 英 司	機 関	2	167	62	匝 興 讓	
〃	〃	航 海	2	163	65	〃 高	

出 漕 ク ル 一

長 崎 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
願 問	柴 田 惠 司	漁 業	3	162	57	杵 築	(大 分)
艇 指 揮	○ 水 田 内 政 勝 己	漁 業	3	167	64	岡 山 操 山	(岡 山)
艇 長	寺 田 良 三	漁 業	3	165	68	佐 世 保 北	(長 崎)
1	月 川 睦	漁 業	3	165	58	長 崎 西	(長 崎)
2	甲 斐 勝 美	漁 業	2	165	62	朝 倉	(福 岡)
3	高 野 昇	漁 業	2	161	61	若 松	(福 岡)
4	安 田 利 幸	漁 業	2	171	67	愛 知 南 山	(愛 知)
5	松 葉 隆 徳	製 造	3	172	64	東 分 上 野 丘	(福 岡)
6	岡 田 半 郎	漁 業	3	172	72	大 分 上 野 田	(大 分)
7	◎ 三 船 弘 昭	漁 業	3	169	67	山 大 分 舞 鶴	(大 分)
8	長 沢 正 道	製 造	2	168	68	大 分 舞 鶴	(大 分)
9	大 白 石 真 一	漁 業	2	162	68	大 分 舞 鶴	(山 口)
10	佐 伯 博 彰	漁 業	3	163	57	大 分 上 野 丘	(大 分)
11	村 山 幹 雄	漁 業	2	173	63	上 五 島	(長 崎)
12	玉 井 守	漁 業	2	170	60	長 崎 西	(長 崎)
補						大 分 舞 鶴	(大 分)
〃							

日 本 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
願 問	添 田 秀 男	漁 業	4	164	60	日 大 鶴 ヶ 丘	(東 京)
艇 指 揮	橋 ヶ 迫 彦 彦	漁 業	4	148	49	日 大 鶴 ヶ 丘	(東 京)
艇 長	篤 達 博 隆	漁 業	4	166	65	日 大 一 高	(東 京)
1	○ 原 加 藤 修 寛	製 造	3	185	77	夷 限	(千 葉)
2	池 田 富 男	増 殖	2	171	66	桃 山	(京 都)
3	沢 田 富 文	漁 業	2	173	60	宮 古 水 産	(岩 手)
4	◎ 岡 田 道 一 雄	漁 業	4	173	64	安 房 水 産	(千 葉)
5	蒔 田 道 良 人	増 殖	4	175	65	焼 津 水 産	(静 岡)
6	鎌 倉 良 人	漁 業	2	168	62	岡 谷 南	(長 野)
7	篠 田 英 雄	漁 業	2	172	67	卷	(新 瀧)
8	小 川 正 正	増 殖	2	169	63	与 板	(新 瀧)
9	田 崎 一 郎	製 造	2	165	62	串 木 野	(鹿 児 島)
10	佐 藤 一 郎	漁 業	3	168	67	高 田	(大 分)
11	関 根 康 弘	漁 業	3	173	68	足 立	(東 京)
12	森 福 田 康 孝	漁 業	2	169	64	烧 津 水 産	(静 岡)
補	福 神 良 雄	漁 業	2	175	69	広 陵	(広 島)
〃	小 林 良 勉	製 造	2	175	62	日 大 鶴 ヶ 丘	(東 京)
〃	伊 藤 良 平	増 殖	2	167	57	荻 窪	(東 京)
〃	佐 野 吉 春	製 造	2	164	56	日 大 鶴 ヶ 丘	(東 京)
〃	西 山 守	増 殖	2	148	50	日 大 三 島	(静 岡)
〃		製 造	3	167	56	田 園 調 布	(東 京)

出 漕 ク ル 一

防 衛 大 学 校

	氏 名	学 科	学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	佐々木 郁郎						
艇指揮	阿部 洋	海・基Ⅱ	4	168	67	唐 津	(佐 賀)
艇長	島 田 篤	陸・土木	3	162	55	熊 本 大 付	属 (熊 本)
1	岡 田 仁	陸・基Ⅱ	3	167	62	城 南	(德 島)
2	川 原 和	海・基Ⅰ	3	170	63	辻	(德 島)
3	内 野 寿	陸・機	3	176	65	明 善	(福 岡)
4	峰 岡 偉	津 夫	2	175	67	大 津	(山 口)
5	岩 谷 文	隆	3	175	61	上 五 島	(長 崎)
6	重 水 義	也	3	177	59	伊 集 院	(鹿 児 島)
7	川 村 旭	空・電	4	176	68	延 岡	(宮 崎)
8	藏 本 正	夫	4	174	64	九 亀	(香 川)
9	下 山 俊	一	2	178	71	津 山	(岡 山)
10	榊 原 東	一 郎	3	170	68	銚 子	(千 葉)
11	石 原 耕	蔵	3	172	63	津 山	(岡 山)
12	牧 原 本	信 近	4	176	62	熊 本	(熊 本)
補	西 村 英	利 行	3	167	61	福 岡	(福 岡)
"	佐 原 利	幸 勉	3	170	64	安 積	(福 島)
"	正 田 藤	悟	2	165	60	城 東	(德 島)
"	斉 藤 正	樹	2	170	62	秋 田	(秋 田)
主 務	◎ 棚 橋 正	樹	4	170	58	岐 阜	(岐 阜)
会 計	○ 島 津 洋	一 郎	4	167	54	灘	(兵 庫)

三 重 県 立 大 学

	氏 名	学 科	学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	細 川 鉄 雄						
艇指揮	三 宅 村 保	増 殖	2	165	62	関 大 一 高	(大 阪)
艇長	川 中 明		3	173	65	文 京 高	(東 京)
1	吉 中 明		2	173	70	兵 庫 高	(兵 庫)
2	水 越 貞 範		2	170	65	四 日 市 工 業	(三 重)
3	代 田 利 夫		2	171	63	桑 名 高	(三 重)
4	山 田 利 夫		2	167	64	長 良 高	(岐 阜)
5	◎ 植 田 雅	漁 業	3	161	61	豊 橋 東 高	(愛 知)
6	彦 坂 政 身		2	168	60	成 章 高	(愛 知)
7	多 田 和 憲		2	168	61	朝 日 高	(岡 山)
8	飯 田 夫 誠	漁 業	3	176	66	津 高	(三 重)
9	村 田 昌 博		3	174	74	布 施 高	(大 阪)
10	永 田 昌 博		3	172	72	向 陽 高	(愛 知)
11	坂 谷 昌 生		2	169	61	松 阪 高	(三 重)
12	○ 三 島 基	増 殖	3	161	60	刈 谷 高	(愛 知)
補	稲 垣 勉		2	168	65	四 日 市 高	(三 重)

出 漕 ク ル 一

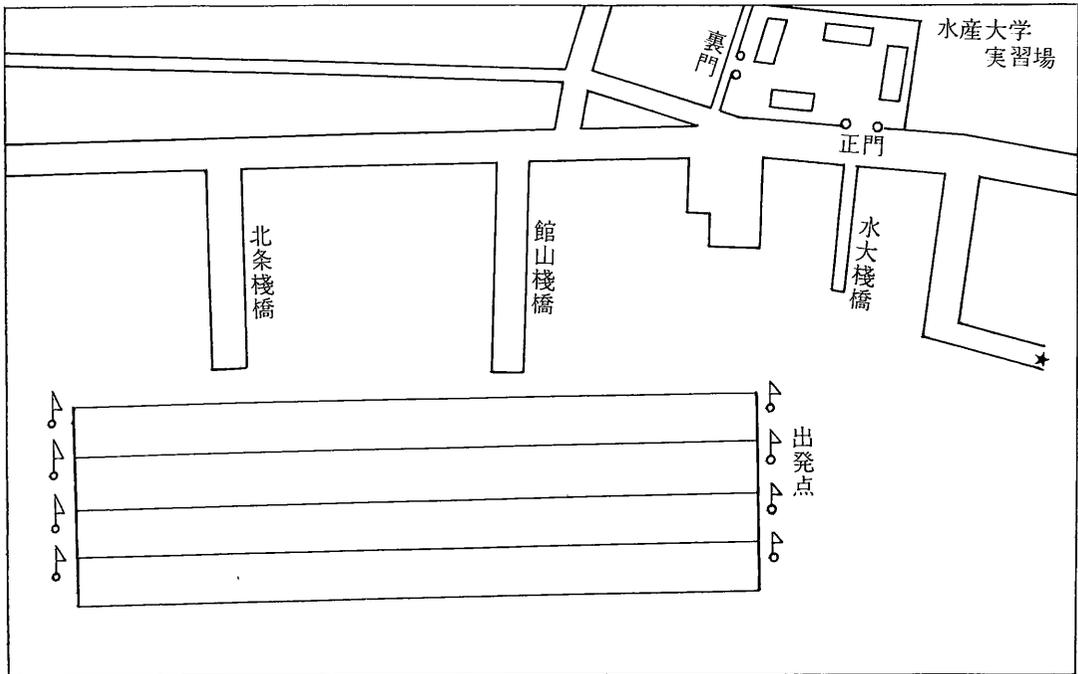
東 京 水 産 大 学

	氏 名	学 科	学 年	身 長	体 重	出 身 高 校	(県)
顧 問	宮 崎 芳 夫						
艇 指 揮	太 田 崎 豊	製 造	4	164	60	江 北	(東 京)
艇 長	杉 崎 馨	漁 業	4	168	64	足 利	(栃 木)
1	太 田 久 一	漁 業	3	169	66	大 町	(長 野)
2	佐 野 茂	増 殖	3	165	62	掛 川	(静 岡)
3	渡 辺 勝	製 造	4	170	69	三 国	(大 阪)
4	山 田 俣 久 誠	漁 業	3	173	62	伊 東	(静 岡)
5	玉 井 井 誠	漁 業	3	174	68	宇 和 島	(愛 媛)
6	井 川 正 比 古	増 殖	3	172	64	今 宮	(大 阪)
7	中 島 広 美	製 造	3	176	68	王 磐	(鹿 児 島)
8	小 谷 津 俊 美	漁 業	2	170	67	磐 城	(福 島)
9	森 本 永 三	漁 業	2	169	64	舟 入	(広 島)
10	丸 山 和 利	増 殖	3	164	65	修 道	(広 島)
11	大 谷 道 夫	漁 業	3	168	63	盛 岡	(岩 手)
12	志 村 実 洋	漁 業	3	167	62	長 野	(長 野)
補	佐 々 木 洋	増 殖	3	172	61	京 都	(福 岡)
〃	伊 藤 克 己	増 殖	2	163	64	上 野 ヶ 丘	(大 分)
〃	大 掛 俊 二	増 殖	2	166	60	都 立	(東 京)
〃	小 池 元 博	漁 業	2	164	60	都 立	(福 島)

成 績 一 覧

第 1 回	① 東京水産大学	② 東京商船大学	③ 神戸商船大学 (東 京)
第 2 回	① 東京水産大学	② 水産大学学	③ 東京商船大学 (神 戸)
第 3 回	① 水産大学校	② 海上保安大学校	③ 東京水産大学 (呉)
第 4 回	① 神戸商船大学	② 水産大学校	③ 海上保安大学校 (横 須 賀)
第 5 回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 三重県立大学 (神 戸)
第 6 回	① 東京商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (館 山)
第 7 回	① 東京水産大学	② 海上保安大学校	③ 神戸商船大学 (呉)
第 8 回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 東京商船大学 (館 山)
第 9 回	① 神戸商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (神 戸)
第 10 回	① 海上保安大学校	② 防衛大学校	③ 三重県立大学 (横 須 賀)
第 11 回	① 防衛大学校	② 海上保安大学校	③ 三重県立大学 (呉)
第 12 回	①	②	③ (館 山)

コース附近略図



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは船艇同型であるのに対し、艇を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張の木製でオール12本（各々長さ約4米40握りの直径8.2纏、重さ10乃至15斤である）マスト、セール等の艤装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向つて船右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3、4～11、12番と続き、1、2番をBowmen、11、12番をStrokemen（整調）と称して橈漕のピッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行つているのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートし、スタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して帰つてくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームずつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のために、タイムレースでなく着順位である。ピッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるピッチを持っている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一瞬といえども息を抜くことを許さず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審 判 規 則

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。 2 スタート <ol style="list-style-type: none"> 1 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。 2 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する 3 スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する 4 スタート：頭上手の旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。 3 審判長、審判員がスタートを不完全と認めたときは直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。 4 スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。 5 回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇またはオール | <p>の一部でも接触した場合は失格である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 ゴール：艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし、順序は審判員が判定する。 7 同着の場合は追込艇の勝とする。 8 ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。 9 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤つて他の艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めたときは失格とする 10 レース中のコースにおける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。 11 レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する 12 オールは予備2本を積み自由に使用して良い。 13 補欠は2名以内自由に交替できる。 14 オールは流したままゴールインしてよい |
|--|--|

M E M O

天候 風向 風速 波浪

時刻	種目	コース	校名	艇	着順	タイム
09.00	開 会 式					
10.00	予選第1レース					
10.40	予選第2レース					
11.20	予選第3レース					
11.45~13.00 昼 食 ・ 休 憩						
13.30	敗者復活レース					
14.10	順位決定レース					
15.00	決勝レース					
15.45	閉 会 式					